



中央大学学会白門化学クラブ支部

白門化学クラブ会報

第11号（平成27年度総会特集）



写真説明：表紙裏をご覧ください。

平成27年10月31日発行
中央大学学会白門化学クラブ支部
〒112-8551
東京都文京区春日 1-13-27
中央大学理工学部応用化学科内
白門化学クラブ事務局
E-mail: hakumon-kagaku
@gakuinkai.com
URL: <http://www.gakuinkai.com/hakumon-kagaku/>

原稿募集記事

表紙写真（上）エアークリナーエレメント 3 種

表紙写真（下）ラインフィルター完成品

フジエンジニアリング株式会社 (<http://www.fiji-engi.co.jp>)

濾過関連機器の設計、製作及び販売

「アポロ 11 号」人類最初の月面着陸の昭和 44 年（1969 年） 学員の牧吉雄（第 1 回昭和 28 年卒）と大西龍介（第 3 回昭和 30 年卒）が起業 現在に至る

白門化学クラブ支部の皆様へ

この夏は猛暑など天変地変があり、皆様には無事乗り切られましたでしょうか。

昨年の第9号同様、9月末の発行が一ヶ月遅れでお届けします。

戦後70年の年ということで数々の催し、報道がありました。

私事ですが、昭和20年は堀中の就学の年でした。JR 山手線恵比寿駅近くの国民学校では教室に入らず、急遽疎開した埼玉県朝霞の学校に転校しました。既に授業が始まっていた教室は疎開児童で溢れ、やっと壁際に机と椅子を貰いました。一学期の途中、山の手大空襲で恵比寿の我が家も学校も焼失してしまいました。その夜、東京の方角の空が真っ赤であったのを覚えています。玉音放送は校庭で聞きました。二学期には、父の茨城県の出身地に転居、小さな集落の分教場の教室に落ち着きました。近藤はその時3歳半、父親の仕事で家族全員(父母に兄弟5人)満州の新京(現在の長春)で終戦を迎えました。その後日本へ引揚げを開始しましたが、現在の北朝鮮領土内でソ連軍の難民収容所に収容され、北朝鮮領土内で足止めされ、その間父はシベリア送りになり、昭和21年7月漸く38度線を脱出し、韓国釜山港に辿り着き引揚げ船で博多港に上陸しました。幸にも東京荻窪の祖父の家は空襲を免れ、大学卒業までそこで過ごしました。私の記憶の始まりは38度線脱出行の時からです。常に空腹を抱え、ぼんやりして栄養失調の無気力児童でした。あれから70年衣食住とも人並の暮らしが出来るようになりました。この良き環境が永続するよう、あの時代を生きたものが後世に伝えなければと思うこの頃です。

中央大学創立130周年の年です。10月17日土曜日、箱根駅伝予選会で中央大学は、8位通過で来年も例年通り正月の楽しみが続けられることとなりました。

白門化学クラブ40周年記念誌の資料作成のために、過去40年間の「学員時報」を閲覧しました。紙面には多摩移転による新たな中央大学創建のための議論が飛び交っていました。この40年間、残念ながら議論は深まらず浮遊し、“都心回帰”に逃げ道を作ってきたように思われます。その度に、現状でも狭隘な後樂園キャンパスが狙われ、一部学部の移転などという風評が聞こえてきます。この区切りの年に、地に足の着いた新たな展望が示されることを期待します。

白門化学クラブ支部に参加、支援いただいている会員の皆様への紙面上でささやかな恩返しをさせていただきます。

今回は、牧、大西先輩の フジ エンジニアリン(株) を紹介させていただきました。化学技術雑誌「化学装置」を閲覧されたことのある会員の皆様には毎月掲載されている広告でおなじみです。

次号以降も同様な企画を進めますので、自薦他薦のお声がけをお願いします。

支部長 堀中 新一
幹事長 近藤 明義

総会報告（講演会では「日本酒」を学び味わう）

平成 27 年 6 月 27 日（土）、定時総会を後楽園キャンパス 5 号館食堂で開催した。定刻前に第 1 回（昭和 28 年卒）の大先輩を含む 30 名が揃った。近藤幹事長の司会で物故者への黙とう後、堀中支部長の挨拶で会が始まった。来年は当支部が創設 40 周年を迎えること、「会報コンテスト」で努力賞を受賞したこと、これまでの活動実績により当支部への補助金が 8 万円に増額されることなどが報告された。



来賓あいさつは大学事務局長の山中様より大学の中長期事業計画などのお話をいただいた。

総会は議長に鳥居政雄会員（昭和 38 年卒）を選出、議事に移り、提案の平成 26 年度活動報告及び決算、平成 27 年度活動計画及び予算が承認された。講演会は、瀬戸晶成会員（昭和 59 年卒）の「新潟の酒」と題して新潟県酒造組合の取り組みを中心に勤務先の銘柄「緑川」の酒造りと 6 銘柄の呑み比べを交えた講話に一同大いに盛り上がった。

その後、懇談会に移り、来賓の応用化学科主任教授石塚先生より最近の大学事情などのお話をいただいた後、「日本酒」による乾杯から始まり、懇談、最後は「校歌」と「惜別の歌」で再会を約し解散した。

会報幹事 根津達郎



第 34 回 (平成 27 年度) 総会・講演会・懇親会出席者

ご来賓

中央大学 事務局長 山中 温 様
中央大学工学部応用化学科 主任教授 石塚 盛雄 様

会員 (敬称略)

第 1 回 昭和 28 年卒(1953) 牧 吉雄
第 6 回 昭和 33 年卒(1958) 川上洋一
第 7 回 昭和 34 年卒(1959) 栗原 功
田中 義暉
八田 幹雄
第 8 回 昭和 35 年卒(1960) 橋澤 晃
江本 房利
第 10 回 昭和 37 年卒(1962) 堀中 新一
第 11 回 昭和 38 年卒(1963) 滝沢 孝一
大石 愛裕
鳥居 政雄
森下 悟
第 13 回 昭和 40 年卒(1965) 近藤 明義
阿部 富男
第 15 回 昭和 42 年卒(1967) 根津 達郎
大嶋 久義
第 16 回 昭和 43 年卒(1968) 林 正道
峯岸 修三
第 25 回 昭和 52 年卒(1977) 柳奥 茂樹
佐々木 利夫
加藤 真哉
高倉 秀壽
中村 博之
第 27 回 昭和 54 年卒(1979) 森田 光夫
第 29 回 昭和 56 年卒(1981) 田澤 和久
第 32 回 昭和 59 年卒(1984) 瀬戸 晶成
第 35 回 昭和 62 年卒(1987) 住吉 宏明
平 栄一郎
平井 高音
中村 雅俊

第1号議案 平成26年度活動報告

(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

1. 平成26年度総会および中田先生を偲ぶ会
平成26年6月21日(土)、後楽園キャンパスで開催しました。
当日の様様を「学員時報」に投稿、第487号に掲載されました。
2. 白門化学クラブ会報第9号および第10号の発行
第9号は平成26年度総会特集・中田先生追悼号として9月末に、第10号は総会案内・記念誌準備資料号として3月末に発行しました。
3. 学員会の「支部会報コンテスト」に第9号をもって応募し、「努力賞」に選ばれました。
4. 設立40周年記念誌発行準備作業
過去40年の歴史に関する資料の収集・整理を開始しました。
5. 支部ホームページの運用
会報のアップ以外の情報の発信を行えませんでした。
6. 中央大学学員会活動への参加
幹事会、協議員会および総会へ参加しました。その他特記事項はありません。

第2号議案 平成26年度決算報告

自 平成26年4月1日～至 平成27年3月31日

(単位:円)

収入の部			支出の部		
科目	金額	備考	科目	金額	備考
総会会費	265,000		総会費	210,680	懇親会費等
学員会補助費 1	50,000	支部活動	支部会報発行費	82,358	第9,10号
学員会補助費 2	10,000		広告費	15,000	学員時報年賀
寄付金 1	8,074	にしち会	会議費	26,115	幹事会
寄付金 2	20,000	匿名	通信費	4,774	
利息	57		雑費	476	
収入合計	353,131		支出合計	339,403	
前年度繰越金	405,630		翌年度繰越金	419,358	
合計	758,761		合計	758,761	

本会計報告には、支部会報10号発行(平成27年3月31日発行)に関わる費用の一部を当年度分として計上致しました。

平成27年5月25日 支部長 堀中新一 会計 大嶋久義
上記について監査したところ、会計処理はすべて適正に処理されていることを認めます。

平成27年5月31日 監査 滝沢孝一 峯岸修三

第 3 号議案 平成 27 年度活動計画 (案) (平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日)

1. 平成 27 年度総会の開催 (6 月 27 日 (土) 実施)
2. 白門化学クラブ会報第 11 号の発行
会報第 11 号は平成 27 年度総会特集として 9 月末に発行します。
3. 支部ホームページの運用と改善
活性化を図ると共に、会員専用の通信、交流手段として活用出来るようホームページ構成の改良を行います。
4. 平成 28 年度総会準備
支部設立 40 周年記念に当たりますので、記念誌発行を含め、鋭意、企画の立案、準備を進めます。
平成 28 年 3 月に総会案内を、総会出欠通知葉書と共に発送します。
5. 白門化学クラブ設立 40 周年記念誌編集・発行
平成 28 年発行を目標に原稿募集を進めます。
6. 中央大学学員会、支部活動への参加
徐々に学員会行事参加、他支部との交流を進めることとします。
7. 支部運営の新世代への移行準備と新学員への PR
次回役員改選の平成 28 年度を目標に準備を進めます。
広報の具体的な方策は学員会事務局との相談によることとします。

第 4 号議案 平成 27 年度予算(案) (平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日)

(単位: 円)

収 入 の 部			支 出 の 部		
科 目	金 額	備 考	科 目	金 額	備 考
総会会費	175,000	7,000 円×25 名	総会費	175,000	懇親会費等
学員会補助費 1	80,000	支部活動	支部会報発行費	40,000	1 回発行
学員会補助費 2	10,000	会報コンテスト	広告費	15,000	学員時報年賀
寄付金	20,000		会議費	25,000	幹事会・監査
			通信費	10,000	総会葉書等
収入合計	285,000		交際費	10,000	行事参加等
前年度繰越金	419,358		HP 維持管理費	10,000	
			雑費	5,000	
			支出合計	290,000	
			翌年度繰越金	414,358	
合 計	704,358		合 計	704,358	

平成 27 年 6 月 11 日 中央大学学員会白門化学クラブ支部
 支部長 堀中新一
 会計担当幹事 大嶋久義

講演 「私の愛する Sake Heartland “NIIGATA”」

緑川酒造株式会社 瀬戸晶成（第 32 回昭和 59 年卒）

私の勤める緑川酒造は創業約 130 年ですが、酒蔵の歴史ではオーナーが変遷により約 350 年になります。

私の仕事は職場環境改善や製品品質維持・向上などの管理業務であり、また、業界内では品質管理のエキスパートとして各所で委員・代表を歴任しています。

◎新潟清酒の香味を表す「新潟淡麗」は「すっきりして切れがよく、飲んだ後に嫌味が口の中に残らない香味」として全国に知れ渡り、今では新潟清酒＝新潟淡麗として認知されています。

新潟県以外で、県で共通となる香味を持っている県はなく、緑川酒造の酒も新潟淡麗にはいりません。

新潟県内の酒造会社数は現在約 90 社で、酒蔵数でも日本一の酒造場数となります。

新潟清酒が風味のスタンダードを持ち蔵の数を維持できる理由は新潟清酒（新潟淡麗）を支える四つの強み、「酒造り・米作りに適した気候」、「贅沢に磨いた米」、「軟水で清らかな伏流水」、「理論に基づいた技術とそれを全うできる経験を持った杜氏達の技」にあります。

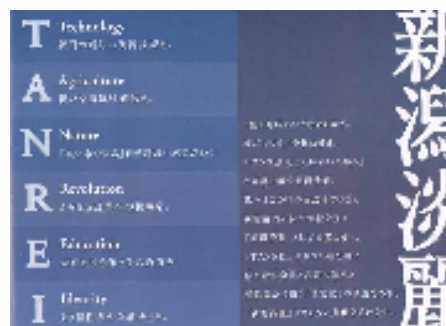
新潟の気候は、夏は比較的晴天が続き日中は高温になるため一日の寒暖の差が激しく米作りに適しています。また、冬には山間部を中心に多くの雪が降り積もるために気温が安定しており、また、空気が清浄なため、微生物を扱う醸造にはもってこいの気候です。

新潟清酒の原料となる酒米は新潟清酒の場合、ほとんどが新潟県産米です。代表品種には全国的に多く使われている五百万石、そして山田錦に替わる越淡麗などがあり、そのどちらもが新潟県で生まれた酒米です。また、精米歩合が小さく、その平均精米歩合は約 58%であり、約 67%の全国平均に比べると非常に贅沢な使い方を行っています。

新潟県は全国有数の豪雪地帯として知られ水量が多くまたほとんどが軟水です。一般に軟水では発酵が穏やかで時間がかかり、その酒は綺麗ではあるがパンチのないなどと言われますが、新潟清酒はこの軟水の特長を洗練させることで、酒質が綺麗で切れがよく香り高い新潟淡麗を作り出しています。

新潟県には全国で唯一となる県立の酒造研究機関、新潟県醸造試験場があります。新潟淡麗は新潟県醸造試験場の指導によって県内で統一されました。醸造試験場の役割は指導だけでなく日常的に酒造関連の研究成果を業界にフィードバックしています。一方酒造業界には大卒スタッフ系従業員からなる新潟清酒研究会と杜氏・新潟清酒学校 OB・酒造従業員からなる新潟県酒造技術研究会の 2 団体があり、どちらもそれぞれの立場で諸問題解決に向けた討議や研究成果発表を行っています。

私のこの業界における成果は社内外で「事故・失敗情報の共有化」と「製品は中味（酒）だけじゃない」ということを提唱し続けたことです。いまでは緑川酒造だけでなく、新潟清酒業界でもそれが当たり前になっています。



白門化学クラブ総会葉書近況報告・コメント(平成27年6月25日現在)(敬称略・順不同)

松永勝治 (11S38 川越市)	盛会を祈念します。
宮川弘一 (31S58 茅ヶ崎市)	毎日せわしない日々を過ごしています。まだまだ現役生活を健康でいられる限りは続けていければと思います。生涯現役を目指しております。
向坂嘉浩 (8S35 豊橋市)	幹事ご苦労様です。この所体調思わしくなく欠席致します。
松枝勝一 (7S34 さいたま市)	千葉県LPガス協会講師、高圧ガス第2種販売主任(国家試験)解答・解説作成、中央俳壇(中大俳句会)役員・・・俳句に興味がありましたなら是非参加下さい。年間二千円ですし頭の体操にもなります。
駒澤廣志 (7S34 戸田市)	78歳油切れ。幹事いつもお世話さまです。
秋山 堯 (7S34 取手市)	(公益財)日本肥糧検定協会理事、JA全農技術顧問および早稲田大学リンアトラス技術研究所招聘研究員などをしてしています。
熊埜御堂宏實 (17S44 宇佐市)	九州大分の地でまだ頑張って業務に励んでおります。
齋藤好雄 (11S38 東久留米市)	元気で過ごしています。
伴 一成 (1S25 松戸市)	元気に生活しています。朝日カルチャーで日本画を学んでいます。
椎名甲子夫 (24S51福生市)	ご連絡ありがとうございます。当日は仕事のため残念ですが欠席いたします。
平林昌子 (45H9 東京都豊島区)	出席できず申し訳ございません。
富田浩郷 (7S34 本庄市)	皆様によろしくおつてえ下さい。
布施好子 (25S52 千葉市)	いつも大変お世話になっております。仕事の都合で欠席させていただきます。今後ともどうぞよろしく願いいたします。
加固正敏 (9S36 狭山市)	総会のご案内ありがとうございます。残念ですが今回も出席できません。10号会報を拝見し後楽園校舎で学んだころを懐かしんでおります。ご盛会をお祈りします。
金壽幸男 (5S32 鎌倉市)	年齢相応息災です。他の用事と重なり欠席致します。会の益々の盛会を祈念致します。
佐藤義明 (11S38東京都練馬区)	ますます活発な活動、期待しております。
萩野太郎 (13S40 小田原市)	白門化学クラブ会報入賞おめでとうございました。総会の盛会を祈念しています。
藤野 勉 (7S34 横浜市)	いつも案内有難う御座います。また会報楽しみに拝見しています。ますますの発展を期待します。
宮城孝之 (8S35 岡崎市)	今年80才になります。暖かくなって天気の良い日は畑仕事、あるいはスポーツジムでのジョギング、水泳と毎日を元気に過ごしています。働いている方には申し訳ない気持ちでいます。
魚津信夫 (6S33 筑西市)	体力低下を実感するようになりました。花々が増え、ウォーキングも楽しくなりました。
杉本八郎 (17S44 京都市)	所用のため欠席いたします。
千葉 享 (7S34 新潟市)	いつも御連絡有りがとうございます。地元”越後のお酒”のお話、拝聴したいのですが残念です。
大木隆雄 (19S46 小田原市)	保護司活動をしています。

渡辺克洋 (13S40 北杜市)	昨年8月に心筋梗塞を発症。その後は問題なく過ごしております。所用で不在となりますので失礼いたします。
茂木達雄 (1S28立川市)	年相応ですが元気に過ごしています。当日は所用もあり失礼致します。盛会を祈ります。
玉川智也 (8S35 松戸市)	ご盛会を祈ります。
石和田義光 (6S33 我孫子市)	年のせいで体がだんだんあまり動かなくなってきました。よろしく願います。
我妻一美 (17S44 横浜市)	支部長はじめ役員皆々いつもお世話になり感謝しています。総会の議案等議長に一任します。小生元気でおります。総会当日は残念ですが、アメリカ アトランタに駐在中の息子の家へ行きますので欠席となります。白門化学クラブの益々のご発展をお祈り申し上げます。
小西和也 (17S44 我孫子市)	会社を転々としている訳ではございませんが、合併、部門独立で別会社など4つ目の会社で、未だ現役で働かされております。
本田正吾 (7S34 茅ヶ崎市)	昨年6月より腎不全を患い目下週に3回(月,火,木,土曜日)人工透析に通っています。従って今総会には欠席となりますので御了解宜しく願います。
関口 勲 (6S33 多摩市)	貴会報に理工学部創立50周年記念誌を紹介していただいて有り難うございます。貴会のご発展を祈念します。
横井誠之輔 (15S42 安城市)	元気です。
大賀文博 (14S41 所沢市)	幹事の方々ご苦労様です。会のご発展を祈念しております。今回、恐縮でございますが、欠席させていただきます。
永井 仁 (9S36 鎌倉市)	今回は少々多忙のために欠席します(姉入院のため)。今はゴルフしか運動していません。皆様によろしく。
中台 徹 (25S52 横須賀市)	昨年心不全にて入院し、現在も療養中です。土曜日が通院日となっております。残念ながら欠席とさせていただきます。
岡戸明雄 (6S33千葉市花見川区)	関口さんも教授となり、東大生研と一緒に卒論を勉強した頃を想い、懐かしく、また敬服する次第です。会報を見て、昭和29～33年当時のことが思い出されました。
鳥居政雄 (11S38 久喜市)	畑仕事、その他相変わらずです。今、白内障の手術の準備中です。脳幹部多発梗塞の疑いありとのこと。
森下 悟 (11S38 町田市)	年齢相応に病気はありますが、相変わらずマスターズ水泳、野鳥撮影を楽しんで居ります。
峯岸修三 (16S43 四街道市)	仕事は単調ですが、忙しく作業しています。
栗原 功 (7S34 平塚市)	傘寿を迎え、気力・体力とも衰えを感じる毎日ですが、元気に過ごしています。
田中義暉 (7S34 日野市)	地道にコツコツと高尾山や高幡不動尊近辺をウォーキングしたり、NHK学園の囲碁教室で烏鷺を打ったり、クラシック音楽を聴く会や歌舞伎を楽しんでおります。
江本房利 (8S35 さ いたま市岩槻区)	返信遅くなって済みません。耳だけでなく、おつむの方も鈍くなってることを感じる昨今です。
八田幹雄 (7S34 横浜市中区)	相変わらず貧乏暇なしです。
大石愛祐 (11S38 松戸市)	白門化学クラブ会報第10号楽しく拝見しました。今日に至る歴史を知ることが出来有り難うございました。事務局の方々、役員の皆様の日頃の御尽力に対し心から御礼と感謝の気持ちを申し上げます。

渡辺邦夫 (8S35 東京都渋谷区)	平成25年6月5日死去しました。永い間いろいろありがとうございました。
小西 直 (5S32 東京都中野区)	病气療養中でしたが、平成27年3月8日孫や家族に見守られながら本人の希望であった自宅で静かに旅立ちました。80才、いいちこの大ファンで亡くなるまでベッドの中で飲んでいました。長い間会報ありがとうございました。小西聖子様
村山永次 (2S29 東京都瑞穂町)	いつもお知らせをいただきありがとうございます。父、永次は昨年7月に他界いたしました。みなさまのますますのご健康、ご多幸をお祈りします。
町出 保 (2S29 東御市)	長野で好きな書や仏像絵の制作をしながら過ごしておりましたが、2年前から体調を崩し、療養しておりましたが、元気に快復し、安心しておりましたが、急性肺炎の為、5月28日朝6時30分に亡くなりました。皆様には生前より大変お世話になり、故人も感謝しておりました。故人になりかわり、これまでのご厚情に御礼申し上げます。
ご連絡頂いた方々	
永留稔夫(15S42 川崎市宮前区) 里方久之(25S52 草加市) 柴 眞(7S34 つくば市) 西山清治(11S38 神戸市) 村上知明(15S42 枚方市) 秋山正雄(4S31平塚市) 阿部健一(25S52 藤沢市) 有山康之(39H3 東京都板橋区) 岩崎洋介(7S34 東京都新宿区) 出口雄一(32S62 会津若松市) 武 訓正(20S47 神奈川県松田町) 小森尚夫(7S34 市川市) 橋本光史(20S47 さいたま市中央区) 福間 司(25S52 さいたま市桜区) 堀木泰之(11S38、40M 千葉市花見川区) 岩下誠司(24S51 さいたま市南区) 田口利明(26S53.55M 狭山市) 金井文彦(8S35 神奈川県葉山町) 赤羽根 勇(7S34 さいたま市北区) 島村周作(6S33 さいたま市大宮区) 石川啓一(6S33 秦野市) 富澤一郎(18S 東京都中野区) 春日 廉(11S38 名古屋市緑区) 邑松康光(12S39 藤枝市) 嵯峨是人(8S35 横浜市) 早川勇造(17S44 長野県御代田町) 鈴木邦威(9S36 綾瀬市) 伊東秀和(39H3さいたま市) 杉本剛一(12S39 宇都宮市)	

人の動き

よろしくお祈りします (入会)

出口雄一 (第 32 回 昭和 59 年卒 会津若松市)
平井高音 (第 35 回 昭和 62 年卒 横浜市泉区)
平 栄一郎 (第 35 回 昭和 62 年卒 東京都新宿区)
中村雅俊 (第 35 回 昭和 62 年卒 浦安市)
小池寛之 (第 38 回 平成 2 年卒 東京都墨田区)
日高章博 (第 44 回 平成 8 年卒 千葉市緑区)

ご冥福をお祈り申し上げます (訃報)

渡辺邦夫 (第 8 回 昭和 35 年卒 東京都渋谷区) 平成 25 年 5 月逝去
村山永次 (第 2 回 昭和 29 年卒 東京都瑞穂町) 平成 26 年 7 月逝去
小西 直 (第 5 回 昭和 32 年卒 東京都中野区) 平成 27 年 3 月 8 日逝去
町出 保 (第 2 回 昭和 29 年卒 東御市) 平成 27 年 5 月 28 日逝去

ご支援有り難うございました (退会)

渡辺邦夫 村山永次 小西 直 町出 保
北爪 宏 (第 7 回 昭和 34 年卒 日立市)
渡辺昌介 (第 11 回 昭和 38 年卒 東京都東久留米市)

~~~~~  
白門化学クラブ 40 周年記念誌原稿ご執筆のための参考資料

### 中央大学工学部研究室ルポ

#### 20 人のナビゲーター 教員インタビュー (応用化学科の先生方)

(第 1 弾) 2001 年 8 月 21 日発行

古田直紀教授 石塚盛雄教授 大石克嘉助教授

(第 2 弾) 2002 年 7 月 24 日発行

千喜良誠教授 (生物錯体化学研究室) 芳賀正明教授 (無機物質創製化学研究室)  
福澤信一教授 (新触媒有機反応研究室)

(第 3 弾) 2005 年 2 月 18 日発行

石井洋一教授 (有機金属化学研究室) 新藤 斎教授 (表面化学研究室)

# 努力賞に輝く

## 第一回支部会報コンテスト

5月16日(土)中央大学駿河台記念館において定時協議員会・定時學員総会が行われその席上、第一回支部会報コンテストの表彰式が行われた。

表彰式には本会を代表し堀中新一支部長が登壇し、久野修慈學員会長より表彰状と金一封が授与された。

今回のコンテストに応募したのは「会報 第9号」で中田先生の特集が組まれていた。先生の業績を少しでも大学本部の方や學員会の方にご理解いただけたらと思ひ応募したのが受賞につながった。プリミティブな紙面の中に込められた會員の想いが評価頂けたのではないかと考えている。(根津)

**第1回 支部会報コンテスト 受賞作決まる**

中央大学員会が実施する「第1回支部会報コンテスト」の受賞作が決定し、最優秀賞に白門40年支部が選ばれた。審査対象は01年(平成13年)に発行された支部会報とし、44支部からエントリーがあった。次点となる優秀賞は、東京練馬区支部、駿河台支部、白門三三支部の3支部が選ばれた。(関連記事は6面)

初めの開催となる今回、顕著の他、支部の特色を生かした魅力ある紙面づくりの三三支部、駿河台支部、白門40年支部、白門48支部、49年白門支部、白門58支部、白門支部、白門58支部、田守學員会副会長をはじめ、最優秀賞、優秀賞の他、白門化学クラブ支部、學員会とする學員会副会長、協賛 佳作には東京文京区支部、経済學員支部の14支部、審員、専門家の名によって、二十七支部、白門三七支部、査員特別賞には南甲俱樂部、厳正なる審査・選考が行われ、土木、都市環境同窓会、支部が選ばれた。

決定したもの、審査員 支部、人口学ゼミ連合支部、受賞した支部には、5月16日(土)に開催される定時協議員会・定時學員総会(16日(土)に開催される定時協議員会・定時學員総会)において表彰式が行われ、表彰状と金一封が授与される。



## 「中央大学学員時報」に掲載の「白門化学クラブ」関連記事

| 号数    | 発行年月日             | 記事の見出し題名                                                                                                 |
|-------|-------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 第105号 | 昭和51年(1976)5月10日  | 『白門工業化学クラブ支部』(昭和28年に第1回卒業生)<br>(副支部長小野田明夫)                                                               |
| 第112号 | 昭和51年(1976)10月10日 | 『はばたけ後輩たち』「理工学部工業化学科の巻」<br>(支部長中田常雄)                                                                     |
| 第119号 | 昭和52年(1977)5月10日  | 『白門工業化学クラブ支部』総会の報告<br>『留学(理工学部 関口 勲 教授)』                                                                 |
| 第132号 | 昭和53年(1978)6月10日  | 『家族的雰囲気でごやかに』第3回化学クラブ支部総会の報告                                                                             |
| 第162号 | 昭和55年(1980)12月10日 | 『ポルトガル雑感』 中田常雄                                                                                           |
| 第168号 | 昭和56年(1981)6月10日  | 『雑感』 石黒鉄郎                                                                                                |
| 第174号 | 昭和56年(1981)12月10日 | 『新入会員51名でより充実』第5回 総会の報告                                                                                  |
| 第206号 | 昭和59年(1984)8月10日  | 『海外で味わった母校』 小野田明夫                                                                                        |
| 第210号 | 昭和59年(1984)12月10日 | 『秋山氏が「ブラジル事情あれこれ」を講演』第8回支部総会の報告                                                                          |
| 第223号 | 昭和61年(1986)1月25日  | 『安藤理工学部教授にオーストリア共和国友好功労章』                                                                                |
| 第224号 | 昭和61年(1986)2月25日  | 『世界の酸性雨防止と日本の貢献』 安藤淳平                                                                                    |
| 第239号 | 昭和62年(1987)5月25日  | 『支部長等表彰者(当支部から阿部二郎氏(7))を承認』学員幹事会                                                                         |
| 第259号 | 平成1年(1989)1月25日   | 『白門化学クラブ支部に名称変更』「白門工業化学クラブ」                                                                              |
| 第274号 | 平成2年(1990)4月25日   | ”提言”「母校と学員会発展のために」 中田常雄<br>『企業とOBとの連携に工夫を』 理工・学科支部の結成に尽力を                                                |
| 第281号 | 平成2年(1990)11月25日  | ”随想”『地球環境と科学技術の限界』 安藤淳平理工学部教授(環境化学)                                                                      |
| 第307号 | 平成5年(1993)3月25日   | 『学園を去る教授たち』定年退職に思いこもごも<br>「失敗を恐れない」 石黒鉄郎(理工学部教授)                                                         |
| 第352号 | 平成9年(1997)4月25日   | 『中田常雄先生をご慰労』理工学部工化・応化同窓会(滝沢孝一)                                                                           |
| 第381号 | 平成11年(1999)12月25日 | 『理工学部創立50周年を祝う』<br>記念式典、祝賀会等多彩な行事を実施                                                                     |
| 第393号 | 平成13年(2001)1月25日  | 『新支部長に小野田明夫氏』白門化学クラブ支部                                                                                   |
| 第427号 | 平成17年(2005)1月25日  | 『母校の学舎で総会を開催』白門化学クラブ支部                                                                                   |
| 第429号 | 平成17年(2005)5月25日  | 『杉本八郎氏を客員教授に迎える』-アルツハイマー病治療薬開発-                                                                          |
| 第432号 | 平成17年(2005)11月25日 | 『杉本八郎客員教授に名誉博士号』日本人としては3人目                                                                               |
| 第433号 | 平成18年(2006)1月25日  | 『後楽園キャンパスに集う』-白門化学クラブ支部-                                                                                 |
| 第438号 | 平成18年(2006)11月25日 | 『理工学部の船造教授がアンモニア溶液で塩ビ樹脂から塩素を低温で除去する技術を開発』                                                                |
| 第446号 | 平成20年(2008)1月25日  | 「後楽園キャンパスに集う」白門化学クラブ支部                                                                                   |
| 第463号 | 平成22年(2010)5月25日  | 「理工学部・船造俊孝教授」平成21年度化学工学会研究賞を受賞                                                                           |
| 第464号 | 平成22年(2010)7月25日  | シリーズ “あの学員に聞きたい”<br>京都大学大学院薬学研究科最先端創薬研究センター客員教授<br>『杉本八郎さん』(1969年理工学部卒)<br>「いくつもの逆境を乗り越え、アルツハイマーの特効薬を開発」 |
| 第467号 | 平成23年(2011)1月25日  | 「進化する後楽園キャンパス」白門化学クラブ支部(幹事・林正道)                                                                          |
| 第478号 | 平成24年(2012)9月25日  | 白門化学クラブ「森の緑と融合した後楽園キャンパス」(幹事・林正道)                                                                        |
| 第482号 | 平成25年(2013)9月25日  | 白門化学クラブ「総会・講演会・懇親会を開催」(幹事・林正道)                                                                           |
| 第482号 | 平成25年(2013)9月25日  | 写真でみる中央大学いまむかし「後楽園キャンパスと後楽園校舎」<br>白門化学クラブ「第33回総会を開催—中田先生を偲ぶ会も」<br>(幹事・根津達郎)                              |
| 第487号 | 平成27年(2015)1月25日  | 学員 故大塚明彦氏を偲んで 中央大学 学員会会長 久野修慈                                                                            |
| 第488号 | 平成27年(2015)3月25日  | 話題の先生にインタビュー 小松晃之先生(理工学部)<br>「重要な役割を担うタンパク質その多彩な働きを生かした新しいバイオマテリアルを開発」                                   |
| 第488号 | 平成27年(2015)3月25日  | 「第1回支部会報コンテスト 受賞作決まる」<br>(白門化学クラブ努力賞受賞)                                                                  |
| 第490号 | 平成27年(2015)9月25日  | 白門化学クラブ『講演で「日本酒」を学び味わう』(会報幹事・根津達郎)                                                                       |

\* 第10号11ページに追記しました。





来年のホームカミングデーには白門化学クラブ支部旗を多摩キャンパスへ

#### 編集後記

秋も深まり紅葉の便りが伝わってくるころになりました。皆様お住まいの地域ではいかがでしょうか。お蔭様で今回も皆様の協力で、会報を発行することができました。心より感謝いたします。

書画を良くし、応用化学科同窓会報の創刊にあたり題字を揮毫された町出保先輩の訃報をご遺族から頂きました。会報は第10号までヤマト運輸のメール便でお届けしていましたが、2年前から「転居先不明」で返品されていました。メール便では郵便局のように転居先への転送がないためです。残念です。ヤマト運輸がメール便をやめたこともあり、費用が心配なのですが、今回から「ゆうメール」で送らせていただきます。

寒さが厳しい季節に向かいますが、お互いに健康には充分気を付けて過ごしたいものです。

会報担当幹事 根津達郎